

平成27年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立加納中学校

はじめにお読みください。

＜調査の結果をご覧になる方へ＞

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体で学習への取組状況等を把握しています。また、平均正答率等、学校全体で情報を共有するとともに、分析を実施して自校の取組等の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせすることは、学校と保護者及び地域の皆様が情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、児童生徒の学力向上の取組を一層充実させることにつながると考えます。

このことを踏まえて、調査の結果をお知らせするにあたり、調査の結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 次に示す調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率などの数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

＜全国学力・学習状況調査の概要＞

※「平成27年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要項」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成27年4月21日(火)

4 調査の内容

学、理科	教科に関する調査	主として「知識」に関する問題 (A)	主として「活用」に関する問題 (B)
		① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ② 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	① 知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力 ② 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など

	【小学校国語A・算数A 各20分】 【中学校国語A・数学A 各45分】	【小学校国語B・算数B 各40分】 【中学校国語B・数学B 各45分】
	【小学校理科 40分】、【中学校理科 45分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上や学習の定着に向けた取組、習熟度別少人数指導、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など
	【小学校・中学校とも20分程度】	

本校の調査結果の概況

国語	A (主として「知識」に関する問題)				B (主として「活用」に関する問題)			
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率
話すこと・聞くこと	4	81.6%	79.1%	79.7%	3	70.1%	70.4%	72.2%
書くこと	5	75.3%	72.2%	73.6%	3	35.8%	34.1%	36.7%
読むこと	5	85.8%	85.0%	86.1%	6	64.3%	61.8%	62.6%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	19	73.5%	72.1%	72.9%	0	-	-	-

数学	A (主として「知識」に関する問題)				B (主として「活用」に関する問題)			
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率
数と式	12	66.5%	66.4%	67.7%	4	64.0%	61.0%	63.2%
図形	12	61.8%	62.5%	63.4%	4	35.5%	38.5%	39.0%
関数	8	63.4%	60.1%	61.7%	5	27.8%	29.8%	30.7%
資料の活用	4	62.7%	61.4%	63.0%	2	32.9%	29.5%	31.2%

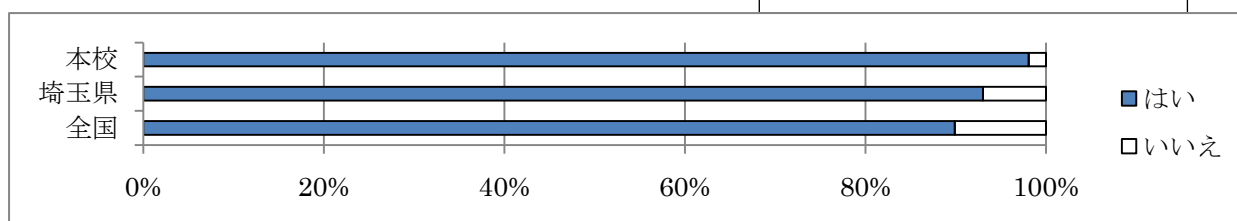
理科					
学習指導要領の分野等		設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率
第1分野	物理的領域	7	48.6%	46.7%	48.9%
	化学的領域	7	56.2%	54.1%	56.2%
第2分野	生物的領域	6	65.2%	61.2%	62.2%
	地学的領域	6	44.1%	46.9%	46.4%

<生徒への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

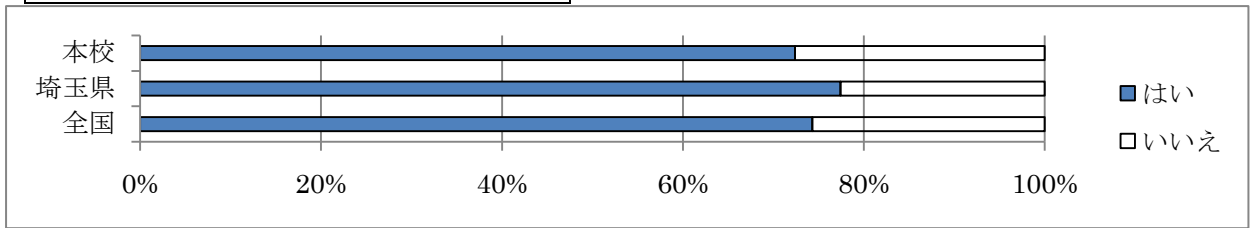
国語の勉強は大切だと思いますか。

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

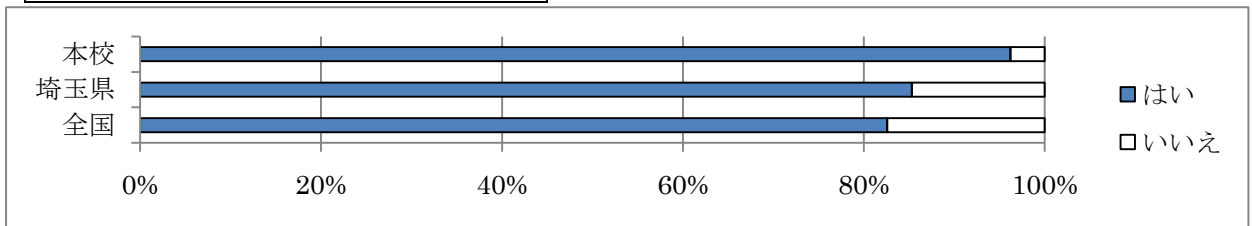
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思うわない



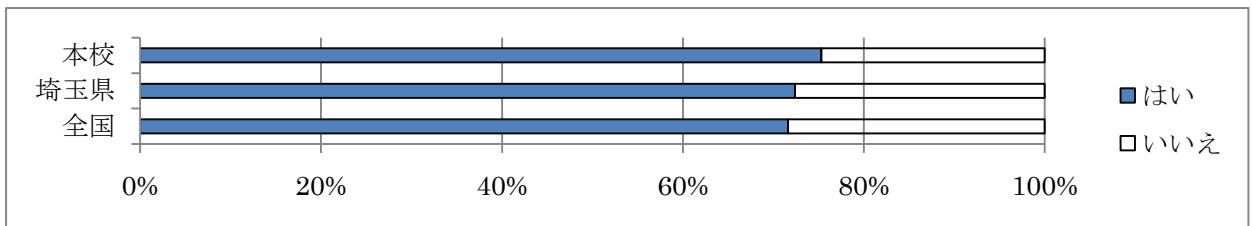
国語の授業内容はよくわかりますか。



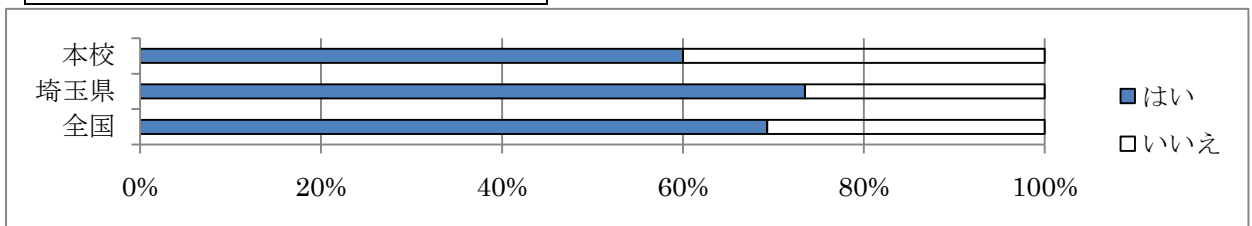
数学の勉強は大切だと思いますか。



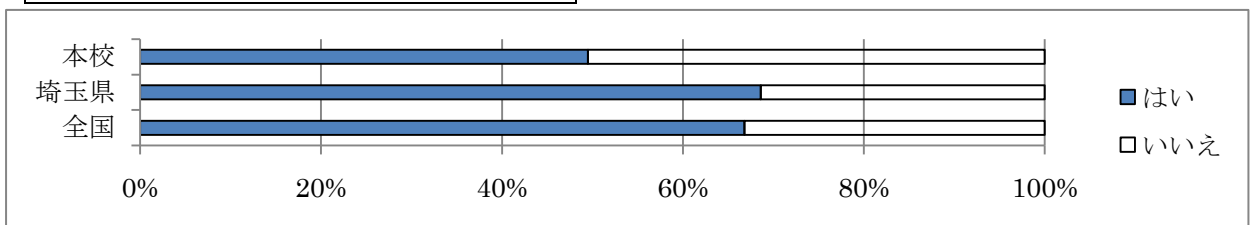
数学の授業内容はよくわかりますか。



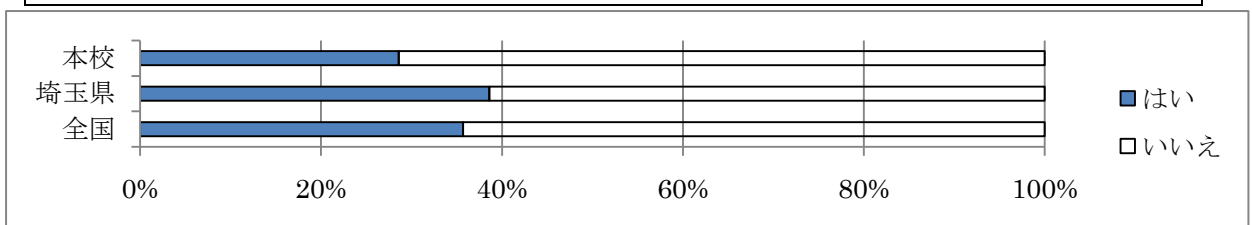
理科の勉強は大切だと思いますか。



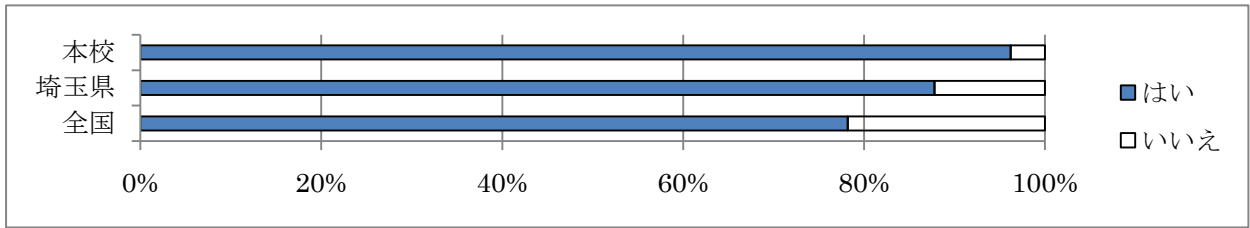
理科の授業内容はよくわかりますか。



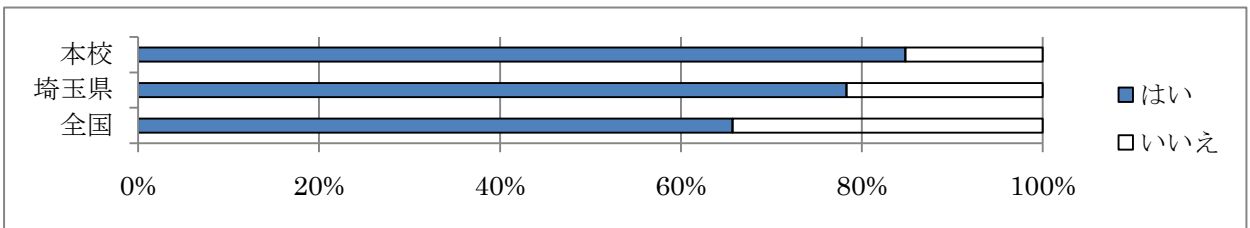
※平日に2時間以上家庭学習をしていますか（塾、家庭教師も含む）



※1, 2年のときに受けた授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思いますか



※1, 2年のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの活動に取り組んでいたと思いますか



本校の調査結果の分析・考察

<国語A>

【領域別】

国語科の4領域（「話す・聞く」「書く」「読む」「言語（文法や古典）」）について、どの分野も全国、県の平均を上回りました。短答式の問題について無解答率が低かったことから、普段の授業などで「書く」ことを多く取り入れ、抵抗がなかったことが考えられます。

【問題（例）】

問題例

スピーチのリハーサルの様子があり、それを見て、答える問題。

①一 場面①で聞き手の反応を見て、場面②のような対応をしました。対応として適切なものを選びなさい。

- 1 説明が必要ないことを感じたことを一部省略した。
- 2 聞き手の理解が得られるまで同じことを何度も繰り返した。
- 3 聞き手の理解を確認するために問いかけた。
- 4 説明が必要だと感じた言葉について補足をした。

正答 4

正答率が90%を超えた問題です。学び合いの活動の中で、話し合いについて「進め方」などが身につけてきているのだと思います。

【問題（例）】

問題例

「風の又三郎」を読んで、問いに答える問題。

③三 本文中の□で囲まれた部分から、嘉助のどのような様子が読み取れますか。

- 1 「風の又三郎」の吹かせた風が弱くてがっかりしている様子。
- 2 転校生が「風の又三郎」だと確信して興奮している様子。
- 3 三郎の行動の意味が分からず腹を立てている様子。
- 4 三郎を仲間にすることができて喜んでいる様子。

正答 2

全国・県平均正答率を下回りました。授業でも読み取りの課題を行っていますが、本文にもとづいて自分の考えをまとめる力を付けていきたいです。

<国語B>

【領域別】

4 領域のうち「話す・聞く」の問題について低い正答率となってしまいました。「話す・聞く」の領域だけでなく、自分で文章を作り、説明を「書く」問題のような、横断的な問題ができませんでした。

【問題（例）】

1 森田さんは、自分の特技についてスピーチする学習に取り組んでいます。次は、発表の際に使用する【ノート】と【フリップ】です。

二 次は、フリップを作成する際の【ポイント】です。森田さんが取り入れていることとして適切なものを2つ選びなさい。

ア イラストや写真などを用いて、視覚的に分かりやすくする。

イ 複雑なデータをグラフや表を使って整理する。

ウ 要点を整理し、伝えたい内容を短い言葉で示す。

エ 資料を引用するときは、出典を明示する。

正答 ア、ウ

正答率は90%を超えました。普段の活動で学び合いを行っていることが、発表の準備についての問題の正答率を上げることができた要因だと思われます。

【問題（例）】

問題例

1 森田さんは、自分の特技についてスピーチする学習に取り組んでいます。次は、発表の際に使用する【ノート】と【フリップ】です。

三 森田さんは、聞き手に一層興味をもってもらうために、発表の中で、オカリナを実際に演奏することにしました。あなたならどのタイミングで演奏しますか。次の<演奏するタイミング>のA,Bから一つ選び、それを選んだ理由を条件にしたがって書きなさい。

条件1 【ノート】の内容と結びつけて、理由を具体的に書くこと。

条件2 五十字以上、八十字以内で書くこと。

問題Aと同じように、自分の考えを文章にまとめることができませんでした。正答率は50%を下回っています。ただ、無解答率は0%と、取り組もうとする意欲は見えますので、授業等で課題作文に取り組むなどして向上させていきます。

<数学A>

【領域別】

「数と式」「関数」「資料の活用」の領域では、本校の生徒の正答率は県および全国平均と比較して同程度、または上回っています。しかし、「図形」領域では、やや下回る問題もありました。無解答率は、県・全国と比較して36問中31問と低く、問題に粘り強く前向きに取り組むことができています。

【問題（例）】

問題例

15人の生徒の反復横とびを20秒間行ったときの結果の記録が与えられており、それを度数分布表にまとめるときの、ある階級の度数（57～61の度数）を求める問題

正答

4

87.7%の生徒が正解し、正答率は全国と比較して11.8ポイント上回りました。

資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現方法を用いることができていると思われます。生徒にとって日常的な場面を取り上げた資料を使い、多様な表現方法を用いて資料の傾向を捉え、その必要感や表現方法の良さに気づかせた学習を多く実施してきた成果が出たと思われます。

【問題（例）】

問題例

円柱・角柱・円錐・角錐の図が与えられており、その中から、 $\frac{1}{3}Sh$ という式で体積を表すことができる立体を選ぶ問題

正答

円錐、四角錐

正答率は、県・全国平均を下回ってしまいました。立体の図を正しく把握できていないことが原因だと考えられます。

授業でさらに、見取り図等、平面における立体図形の表現に注視させたり、操作的な活動をより多く取り入れたりして、立体に対する理解を深めさせたいと考えています。

<数学B>

【領域別】

「数と式」や「資料の活用」の領域では県・全国平均正答率を上回っていますが、「図形」「関数」の領域では、平均を下回るものもありました。記述式で解答する問題では特に正答率が高く、また無解答率が県・全国の無解答率に比べて極端に低いという結果から、数学に対する関心意欲が高いと考えてよいと思われます。

【問題（例）】

問題例

連続する5つの整数の和がどんな数になるかを調べる場面で、3つの具体例から、どんな数になるかを記述式で答える問題

正答

連続する5つの整数の和は、中央の整数の5倍になる。

70%を超える生徒が正解でき、県・全国の正答率を7ポイント近く上回りました。この問題は、3つの整数の場合について同様の事項が成り立つことを踏まえて、5つの整数の場合を発展的に捉え、予想した事項を説明することができるかどうかを問う問題です。「具体的な事項に興味を持たせ、文字式で一般的に証明する」という展開を多く行った成果であると考えます。

【問題（例）】

問題例

おうぎ形の中心角の大きさ x° と、底面になる円の半径の長さ y cm の関係の表をみて、 $yx = \frac{x}{30}$ という式で表せるが、この式が表す関係についての正しい記述を選ぶ問題。

正答

y は x に比例する

県・全国の正答率に比べて、かなり低かったです。分数という式の形だけで「反比例だ」と短絡的に選んでしまった生徒が多かったようです。表と式の意味するところを関連づけて考える授業を多く展開していこうと考えています。

<理科>

【領域別】

物理的領域と化学的領域では全国平均正答率に近い値で、県平均正答率より約2ポイント上回っています。生物的領域は全国平均正答率から3.0ポイント上回り、県平均正答率から4.0ポイント上回っています。地学的領域では全国・県平均正答率共に2ポイント以上下回っていました。

【問題（例）】

問題例

8(3)

【表からの読み取り】考察は課題に対して適切とはいえません。課題に対して適切な考察になるように、下線部を書き直さない。

正答

(例)フナとナマズのえらぶたの開閉回数は、水温が高くなると増える

全国平均正答率と県平均正答率が47%前後に対して、本校では57.1%の正答率でした。実験時の考察を記入する取り組みを2年次から継続して行っていたので、思考力や文章表現力が高まっているようです。

【問題（例）】

問題例

3(1)

【表からの読み取り】この日の観測では気温が下がり、露点はほとんど変化していない。湿度は下がっていた。湿度が最も高い時刻を選びなさい。

正答

エ(16時)

気温により飽和水蒸気量が変化すること。飽和水蒸気量をもとにした割合が湿度であること。この2つの数値に関する理解が十分ではないようです。

湿度に関する問題と、露点と霧雲の発生に関する問題の正答率が低くなりました。数値から思考することが十分では無いようです。内容の理解のために問題練習を行うことで、さらに深めていきたいと考えています。

<質問紙調査から>

【(例1)】

※学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

「平日は2時間以上家庭学習をしていますか」に該当する生徒の割合は、本校で28.6%、県は38.6%、全国は35.7%でした。家庭学習の少なさは以前から指摘され、全校を挙げて取り組んでいる途中です。定着してきた「自主学习ノート」の提出を呼びかけ、教師が毎日チェックするなどして家庭学習を励行し続けています。

【(例2)】

※1, 2年のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの活動に取り組んでいたと思いますか

84.8%の生徒が「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と答え、全国の65.7%に比べ大きく上回りました。総合的な学習の時間の取り組みなどでもよく話し合っています。それが、普段の授業でも意識して生かすことで学び合いの取り組みが生きてきていると言えます。さらに研究を深め、効果的な話し合い、発表活動の力をつけさせて行きたいところです。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「平成27年度 全国学力・学習状況調査等実施要項」(埼玉県教育委員会)より抜粋

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考 [「平成27年度 全国学力・学習状況調査リーフレット」](#) (埼玉県教育委員会)

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成27年4月16日(木)

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数
 中学校第1学年 国語、数学
 中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

(2) 質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
教科の領域等									
話すこと・聞くこと・書くこと	3	70.9%	69.6%	3	69.5%	72.9%	3	63.2%	65.6%
読むこと	18	75.0%	74.1%	18	67.9%	70.3%	18	68.7%	67.5%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	27	70.3%	69.0%	27	65.0%	63.4%	27	63.2%	61.7%

数学		第1学年		
教科の領域等		設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
小学校領域	数と計算	18	61.3%	62.4%
	量と測定	11	63.0%	63.2%
	図形	8	49.7%	50.8%
	数量関係	9	53.9%	51.2%

数学		第3学年		
教科の領域等		設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
中学校領域	数と式	21	60.8%	56.6%
	図形	9	59.0%	55.9%
	関数	10	33.2%	30.0%
	資料の活用	8	41.9%	34.4%

※ 数学の調査においては、第1学年の内容は小学校の学習内容から出題されています。
 また、第2学年においても一部小学校の学習内容から出題されています。

数学		第2学年		
教科の領域等		設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
小学校領域	数と計算	5	55.7%	59.4%
	量と測定	2	48.7%	57.2%
	図形	2	50.0%	48.8%
	数量関係	2	50.0%	52.6%
中学校領域	数と式	16	49.5%	58.1%
	図形	9	42.9%	45.9%
	関数	7	36.3%	38.8%
	資料の活用	6	15.4%	26.1%

英語 教科の領域等	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	73.0%	77.1%	10	72.2%	70.5%
話すこと	0	-	-	0	-	-
読むこと	41	66.7%	70.5%	33	69.8%	65.8%
書くこと	13	58.5%	58.9%	15	66.1%	60.1%

<生徒への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段:本校の達成率、下段:県の達成率、網掛けは80%以上

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	100.0	99.2	98.1
		99.3	98.6	98.1
	② 授業開始時刻	100.0	98.3	99.1
		98.8	98.3	98.5
	2 身の回りの整理整頓をする			
③ 靴そろえ	93.3	87.4	92.5	
	95.3	91.9	92.2	
④ 整理整頓	93.3	89.1	83.2	
	91.7	88.2	88.2	
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	94.1	84.0	83.2
		87.6	86.6	86.1
	⑥ 返事	91.6	89.1	91.6
		93.6	91.0	90.5
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
⑦ ていねいな言葉づかい	97.5	95.0	89.7	
	94.7	93.2	94.2	
⑧ やさしい言葉づかい	95.0	84.9	79.4	
	92.3	89.6	90.8	
○約束やきまりを守る ことができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	95.8	93.3	90.7
		95.2	90.5	91.0

	⑩ 話を聞き発表する	94.1 84.9	59.7 77.6	78.5 77.8
6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度	95.0 95.6	92.4 93.3	97.2 94.5
	⑫ 掃除・美化活動	95.8 93.4	84.9 88.3	84.1 88.6

本校の学力向上プラン

授業における取組

- ① 授業規律の明確化
 - ・教師と生徒が共通して「チャイムあいさつ」（チャイム着席でなく、チャイムで授業が開始される）というキーワードで実践しています。
- ② 加納中型授業スタイルの確立
 - ・各教科、導入からまとめまでの思考・理解の段階を明確に示し、生徒が授業で学ぶ内容について見通しを持たせる取組を継続しています。
- ③ 「学び合い活動」の充実
 - ・教師主導型の授業でなく、生徒が主体となる活動を取り入れています。具体的には、グループでの話し合い活動、思考ツール（考えの流れを見るための道具）の活用によって「学び合い」をしています。

授業以外の取組

- ① 「時」「場」「礼」の生徒指導共通目標の推進（加納小学校との連携）
 - ・「時を守り、場を清め、礼を正す」を教師、生徒の共通目標として常日頃から取り組んでいます。
- ② 朝読書の取組
 - ・毎日、朝の会の前10分間を読書の時間とし、本に親しむ時間とするとともに、落ち着いて授業を受ける状態を作っています。
- ③ 家庭学習の習慣化
 - ・家庭学習の状況を自主学習ノートによって習慣化をはかり、生活ノートの提出によって把握しています。
- ④ 定期テスト前の補習の取組
 - ・定期テスト前には教科の質問や補習の時間を取ります。
- ⑤ 「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業推進協力校（南部地区 加納中一加納小）としての「学力向上」に向けた実践をしています。

保護者・地域の皆様へ

加納中学校では、「規律ある態度」に関して「チャイムあいさつ」を合い言葉に時間を守ることを生徒・教師一丸となって励行し、習慣化しています。落ち着いた学習環境のなかで、授業への集中度をあげたいと思っています。また、学び合い活動を充実させ、生徒が主体となる活動を取り入れることにより、学習効果の向上を目指しています。しかし授業内容のさらなる定着のためには、毎日の復習など家庭学習の習慣化が今後の課題だと思われまます。各ご家庭のご協力をお願いします。